



TITLE:

# 脾癌のRisk Factor

AUTHOR(S):

真辺, 忠夫

---

CITATION:

真辺, 忠夫. 脾癌のRisk Factor. 日本外科宝函 1988, 57(2): 141-142

ISSUE DATE:

1988-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203943>

RIGHT:

---

 話 題
 

---

## 膵 癌 の Risk Factor

真 辺 忠 夫

膵癌は肺癌、乳癌、結腸癌とともに最近とくに増加傾向が著しく、厚生省の1985年の人口統計では膵癌による死亡者は10,441人に達しており、男女を含めた癌の死亡順位では胃癌、肺癌、肝臓癌、結腸癌について5番目であり、今後ますます増加する傾向にある(図)。男女比では1.7:1で男に多く、年齢では55才位から多くなり、70才代にピークを形成している。

膵癌の増加の原因はまず第一に腫瘍マーカーや、超音波、CT、ERCPなどの画像による診断技術の進歩により膵癌と診断される症例が増えてきたことがあげられる。一方では疫学調査によって生活環境の変化が膵癌増加に拍車をかけていることも裏付けられている。とりわけ食生活の欧米化が膵癌増加に深く関与していると考えられる。

最近の日本人の膵癌の人口10万対罹患率は男8.6、女4.5であるが、これは西欧諸国とほとんど変わらず、また、日本国内における地域差も少い。戦後まもなく行われた平山ら<sup>1)</sup>による東京都での調査では全部位の癌死亡者のうち東京生れの割合は45.4%であるのに膵癌では24.0%にすぎないことから膵癌は田舎に生れて東京に出てきたもの、すなわち成人になって食生活が急に西欧化したものに多いことが示唆されている。このことは現在の膵癌の年齢構成が70~80才に極めて急峻なピークを作っていることから伺われる。

疫学的に食事、嗜好品の上から膵癌に深く関係している因子に肉食の摂取と喫煙があげられている。このうち肉食については毎日肉を一回以上食べる人は肉を毎日食べない人に比べて有意に膵癌の発生が高いとされている<sup>2)</sup>。とくに肉に含まれる動物性脂肪が関係し、蛋白質は関係がないといわれている<sup>3)</sup>。食事で摂取された脂肪類は上部小腸でコレシストキニンの分泌を刺激するが、このホルモンによる膵外分泌腺に対する栄養効果が膵癌の素地を作るのではないかと考えられる。一方、喫煙との関係については喫煙本数と膵癌発生の間には密接な関係があるとされており、膵癌死亡率をみると非喫煙者に比べ1日1~14本の喫煙者は1.5倍、15~29本の喫煙者は1.6倍、30~39本では1.7倍、40~49本では1.8倍、50本以上では2.6倍と明らかな相関関係をもって膵癌発生率の増加がみとめられている<sup>4)</sup>。タバコに含まれる物質のうち何が膵癌発生の原因物質になっているかについては現在のところ明らかではない。興味あることは喫煙に肉食が重なると一層膵癌発生のリスクは高くなり、死亡率でみると、非喫煙者で肉を毎日食べない場合に比べ、非喫煙者で毎日肉を食べる者は1.25倍、喫煙者で毎日肉を食べない者は1.53倍、喫煙者で、しかも毎日肉を食べる者は、1.88倍となっている。

コーヒーについては、1981年 MacMahon ら<sup>5)</sup>がコーヒーの飲料と膵癌発生の危険性の間に明らかな相関をみとめており、またコーヒーに喫煙が重なると、膵癌発生のリスクが高くなることも指

TADAO MANABE; Risk Factors in Cancer of the Pancreas

Assistant Professor of the 1st Department of Surgery, Faculty of Medicine, Kyoto University.

Key words: Cancer of the pancreas, Risk factor, Intake of meat, Smoking.

索引語: 膵癌, 危険因子, 肉食, 喫煙.

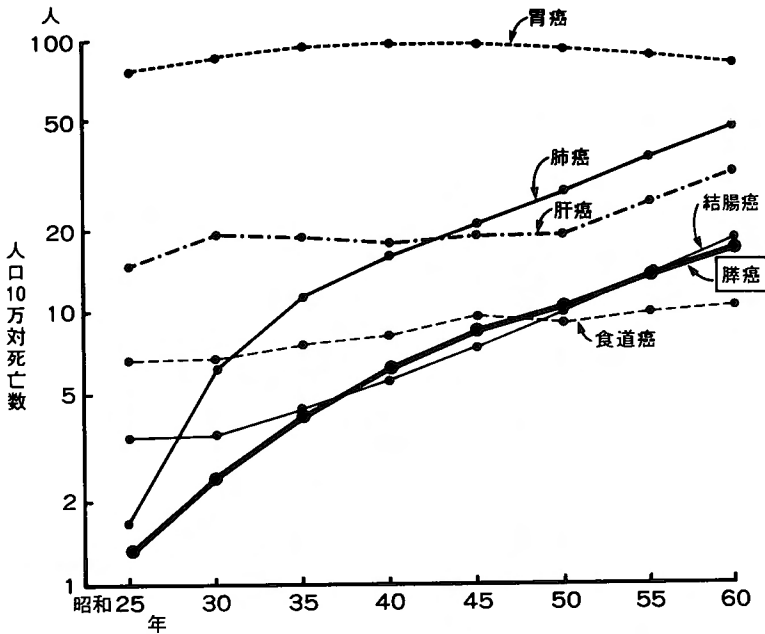


図 癌の死亡数の年次推移 厚生省「人口動態統計」より

摘している。しかし、膵癌患者の中にカフェイン抜きのコヒー常飲者もかなりいること<sup>4)</sup>や、紅茶は膵癌との間に関連性が見い出せないこと<sup>3)</sup>よりコヒーは膵癌発生の危険因子であるとしてもカフェインと膵癌の間に関連はないとされている。

一方、膵炎発生の主因の一つであるアルコールと膵癌発生の関係については否定的な意見が多い。

膵癌に関連する病態としては糖尿病があげられる<sup>5)</sup>。男女とも糖尿病患者では非糖尿病患者に比べ1.5～2倍膵癌の発生が高いといわれており、糖尿病は膵癌の重要な危険因子の1つとされている。逆に膵癌による随伴性膵炎が糖尿病を惹起することも知られており、突然の糖尿病の発症が膵癌診断のきっかけになることもよくみられることである。膵炎あるいは胆石症が膵癌の発生に関与することはないとされているが、膵癌の発生にともなって軽度の急性膵炎あるいは随伴性の慢性膵炎の発生はよくみられる現象である。

膵癌は近年とくに他の癌に比べて増加傾向の極めて著しい癌であるばかりでなく、臨床的にも初期症状が乏しく、多くの場合、診断時すでに進行癌の様相を呈している場合が非常に多い。したがって手術成績も極めて悲観的な現況にある。

このような膵癌を克服するためにはやはり膵癌に対する予防、すなわち禁煙の指導、脂肪のとりすぎなどに対する注意などのキャンペーンを行うことも重要である。

## 文 献

- 1) 平山 雄：予防ガン学；その新しい展開。メディサイエンス社 1987。
- 2) Durbec JP, Chevillotte G, Bidart JM et al: Diet, alcohol, tobacco and risk of cancer of the pancreas: a case control study. Br J Cancer 47: 463-470, 1983.
- 3) MacMahon B, Yet S, Trichopoulos D et al: Coffee and cancer of the pancreas. New Engl J Med 304: 630-633, 1981.
- 4) Lin RS, Kessler II: A multifactorial model for pancreatic cancer in man. J Am Med Ass 245: 147-152, 1981.
- 5) Kessler II: Cancer mortality among diabetics. J Natn Cancer Inst 44: 673-686, 1970.